

生物多様性の保全



2023年度の進捗

- 国内拠点の生態系調査を生かした保全活動の推進
 - ・ 京都工場でのビオトープ(※)の整備及び希少植物の育成
 - ・ 滋賀工場での湿地保全及び希少植物サギソウの育成
- 国内外での植林・育林活動の実施
 - ・ パジェロの森(山梨県)での植林・育林活動の実施
 - ・ 岡崎アウトランダーの森(愛知県)での植林活動の実施
 - ・ フィリピンでの植林プロジェクトの完遂(100ヘクタールへの合計78,700本の植樹)

※ ビオトープ：生物が自然な状態で生息している空間

〈関連ページ〉

P12 三菱自動車のマテリアリティ

P15、P17 マテリアリティ

P26 環境マネジメント

(WEB) 生物多様性関連データ

https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/esg/biodiversity-related_data/

基本的な考え方

全ての生きものは様々な関係で複雑につながり合い、バランスを取りながら生きています。私たち人類の生活は、この生物多様性による恩恵を受けています。

自動車産業においては、工場建設をはじめとする土地利用や、工場からの化学物質の排出、製品の使用や事業活動によって排出される温室効果ガスなどにより、生物多様性に直接的又は間接的に影響を与えています。また、気候変動による地球環境の変化は、生態系に直接的かつ大きな影響を及ぼすとされています。三菱自動車は人類が生物多様性による恩恵を持続的に受けられるよう、気候変動対策をはじめとする取り組みを推進し、生態系を守っていくことが、当社の重要な課題と考えています。

当社は、2010年8月に「三菱自動車グループ生物多様性保全基本方針」を策定し、保全活動を推進しています。

当社の国内事業所は、自然環境保全法及び都道府県条例にもとづく保護地域の内部や隣接地域にありませんが、事業活動が生物多様性に与える影響を把握するため、生態系調査を行いました。

また、水源を守るとともに社員の環境意識を醸成することを目的に、国内外で森林保全や社員ボランティア活動を通じた地域との交流に取り組んでいます。

三菱自動車グループ 生物多様性保全基本方針

人類の活動が生物多様性の恩恵を受けているとともに、生物多様性に影響を及ぼしているとの認識を持ち、三菱自動車グループ企業全体で、地球温暖化防止、環境汚染防止、リサイクル・省資源の取り組みに加え、生物多様性に配慮した活動に取り組み、生物多様性への影響の把握と低減に継続的に努めます。

1. 事業活動での配慮

省エネルギー、廃棄物の発生抑制、化学物質排出抑制などを推進するとともに、工場建設などの土地利用においては周辺地域に配慮し生物多様性への影響の把握と低減に努めます。

2. 製品での配慮

燃費改善、排出ガス対策、リサイクル設計を推進し、環境に配慮した材料の採用に努めます。

3. 理解・啓発・自覚の継続

三菱自動車の活動と生物多様性の関係についての理解と自覚を、経営層から従業員まで全員で共有します。

4. 社会との協働・連携

サプライチェーンおよび株主、自治体、地域社会、NPO/NGOなどのステークホルダーと連携し、活動を推進します。

5. 情報の発信・公表

三菱自動車の活動内容や成果について、お客様や地域社会への情報発信・公表に努めます。



保全活動の推進

国内事業所における生態系調査

自動車の生産には大規模な工場を必要とします。三菱自動車は、事業における土地利用が地域の生態系に与える影響を把握することが、生物多様性保全に取り組むうえで重要と考えています。この考えのもと、当社は生物多様性関連の調査会社の支援を受け、工場など大規模な土地を利用する国内事業所での生態系調査を実施しました。調査では、国内事業所の敷地内のみならず、周辺環境の生態系を現地調査や文献調査から把握することで、地域の生物多様性と調和した保全施策につなげています。

生態系調査 実施拠点

実施年度	拠点
2013	京都製作所 滋賀工場
2015	岡崎製作所
2017	水島製作所 / 京都製作所 滋賀工場 (※)
2018	十勝研究所
2019	京都製作所 京都工場
2021～2023	京都製作所 京都工場 (※)

※ 施策による保全効果を確認するためモニタリング調査を実施

京都製作所 京都工場

地域と連携した希少植物の育成

京都市街地にある京都工場はかつて地域に見られた植物や昆虫が局所的に生き残っている場所（レフュージア）になっており、地域の生物多様性を保全するうえで重要な環境であることが生態系調査の結果からわかりました。そこで、トンボなどの昆虫が生息しやすい環境を整えるため、構内の

緑地「憩いの広場」にビオトープをつくり、広場にある池ではオニバスやミズアオイ、広場ではヒオウギやフジバカマ、フタバアオイなどの京都在来希少種を育成しています。

2024年3月には京都工場における生物多様性をより高めることを目的にビオトープ池の改修を行いました。これまで立方体だった池をフタバアオイの葉の形をモチーフにした形状に整え、多様な水生生物が生息しやすい環境とするため場所によって水深を変化させました。また、訪問した人が安全に観察できるよう、観察デッキと周回路を設置しました。



改修されたビオトープ池



観察デッキと池の植物

京都製作所 滋賀工場 サギソウが咲く湿地の保全

工場内にある湿地の保全を通じて、希少植物であるサギソウの保護に努めています。メリケンカルカヤなどの外来草本を社員が定期的に駆除し、湿地の環境を維持することにより、毎年夏にサギソウが清楚な花を咲かせます。



社員による外来草本の駆除



サギソウの開花

国内外での森林保全活動

当社は2006年から山梨県早川町の山林「パジェロの森」(約7.23ヘクタール)にて早川町及び公益財団法人オイスカと協働し、森林保全活動を実施しています。2023年度の活動として、4月に新入技能訓練生が森林内の歩道の整備を行い、9月には社員とその家族が歩道延伸やベンチづくりを行いました。また、2023年3月、当社製作所の所在地である愛知県岡崎市と「森林保全活動連携協定」を締結し、その一環として岡崎市額田地区の森林(約50.7ヘクタール)を「岡崎アウトランダーの森」と命名して、森林保全活動を実施しています。

海外では、ミツビシ・モーターズ・フィリピンズ・コーポレーション (MMPC) とフィリピンの環境天然資源省 (DENR) が、約5年間でルソン島の100ヘクタールの土地に植林を共同で行う植林プロジェクトを2018年3月より開始し、合計78,700本を植樹して、2023年7月に完遂しました。2023年7月の植林活動では、ケソン州インファンタの38ヘクタールの土地に竹やマングローブなどの数種の苗木を植え、海岸林を作りました。海岸林を育成することは、周辺地域の土壌浸食防止にも繋がります。MMPCは、今後もDENRの支援を受けながら森林を継続的に管理し、環境保護のみならず地域社会にも貢献していきます。



パジェロの森での歩道整備の様子



MMPCの植林プロジェクト